



亀っ子だより

第3号

— 亀崎小学校 校長通信 — 2019年5月13日

遠足の翌日、6年2組の黒板にこのようなことが書かれていました

遠足の翌日、6年2組（担任は山口先生）の黒板に次のような板書がありました。「きのうは明治村に行きました。みんなの写真を見返すと、一日よく考えて行動し、よく勉強してきたなど感じました。それ以上に、帰りのバスの乗り降りで『よろしくお願ひします』『ありがとうございました』と一人一人が言えたのがすばらしい！感謝を伝えられる人になろう！さあ本格的な連休明け。もう一度、丁寧にいきましょう」

この板書を読んだ子どもたちはとてもうれしかったことと思います。そして、6年生の子たちが明治村でどのような行動をとったのか私にも伝わってきました。亀崎小の子どもたちがこのような人に成長してほしいと私も思っています。この板書を読んで、私もとてもうれしく思いました。

朝、雨に降られた日のドラマ

10連休の前日、朝の交差点に立っていると嫌な雲が西の空に見えました。念のために私は傘を持ってきていましたが、通り過ぎて行く子のほとんどが傘を持っていませんでした。子どもたちがみな通り過ぎ、その後ろを歩いていると雨がぽつぽつと降ってきました。これはまずいなと思っていると、雨は大粒になりアスファルトの道はすぐに水浸しになってしまいました。前の子どもたちを追いかけると、交差点で立っているボラパトさんと一緒にマンションの軒先で雨宿りをしている一団に会いました。すると一台の車（たぶん保護者の方だと思います）が子どもたちの前に止まり、傘を10本くらい持ってきて、みんなに渡してくれました。傘を届けてくれたことと少し小降りになったことでその一団は、やっと学校に向けて歩き出しました。子どもたちと一緒に歩いていると、立ち止まっている班がありました。よく見ると、1年生の女の子が転んでしまったらしく、班長さんがおぶって連れて行こうとしていました。上り坂がきついところだったので、さすがに「班長さんの気持ちだけで十分です。歩いていこうね」と1年生を励まし、一緒に歩いていきました。学校にあと少しというところで、今度は地域の人が「子どもたちがびしょびしょで通りかかったので、あの人の子が子どもたちに傘を10本ほど貸してくださいましたよ」と教えてくれました。そんなこともあったのかと思い歩いていると、学校に入ったところでお母さんに会いました。「きょううちの子はびしょびしょだと思ったので、着替えを持ってきました」と話してくださったので、着替えを受け取り子どもに渡しました。

大変な朝でしたが、いろいろなところでドラマがあったようです。ボラパトさん、地域の人、そして子どもたちの善意にあふれた朝だったようです。

うれしい話を聞きました

毎朝、学校のツゲやツツジを剪定してくださったり、雑草を刈ってくださったりする地域の人があります。その人に出会ったときには挨拶をしようと心がけています。ある日もこの人の姿を見かけたので、挨拶に行きました。そのときに教えてもらったお話です。

「私が亀崎駅から家に帰るとき、小学生の女の子とすれ違いました。その時、『こんにちは』と挨拶をしてくれました。そして、少し小さな声で『体に気をつけてください』と付け加えてくれました。子どもに励まされて、とてもうれしく思いました。」

その女の子は、毎朝、剪定などをしてくださっている人だとわかってそう付け加えたのかどうかはわかりませんが、挨拶だけでなく、さりげない一言がこの人の心を打ったようでした。子どもの純粹さと温かな心遣いを感じるエピソードだと思います。この話を聞いて、私もとてもうれしく思いました。

朝の風景

5月10日、この日は弁当持ちの日でした。朝、ボラパトさんと横断歩道付近に立っていると、班登校をしてきた班長さんが突然逆方向に走り出しました。お弁当を忘れたのかと思い、その班の子たちを見送りました。戻ってきた班長さんに「何を忘れたの？」と聞くと「名札です」と答えてくれました。「あわてなくても、まだ時間があるから大丈夫」と伝え、後ろを歩いて行きました。班長さんは、走るのをやめたものの、早足で一生懸命に歩いて行きました。そして、また走り出しました。歩いて行けば大丈夫なのだと思いますが、後ろから様子を見ていました。すると、先に行っていた班の子たちに追いつき、先頭を歩き、交差点や横断歩道を上手に渡してくれました。先に行っていた班に追いついたかっただと、班長さんの気持ちがやっとわかりました。名札を忘れたことで走って戻り、走って追いつき、低学年の子たちの安全をきちんと守りながら登校する班長さんの責任感の強さに感心しました。（「亀っ子の約束」では、「忘れ物をして家に取りに帰りません」と書かれています。忘れ物を取りに帰って、あわてて登校して交通事故に遭うことが心配されます。これからは、忘れ物をして取りに帰らないでくださいね。）

♣ 子育てアラカルト ♣

[母親の知恵]

子どもが道ばたで転ぶ。

アメリカの母親はどうするか。
じっと見ている。助けにいかない。自分で立ち上がるのを待つ。
独立心を植えつけるためだ。

日本の母親は飛んでいく。
助け起こす。「かわいそう、かわいそう」とほこり払う。
その瞬間は母子ともにハッピーだ。
でも将来を考えると暗い。

最高の知恵を持っているのは、アフリカの母親だ。

子どもが倒れる。

どうするか。

すばやく、自分も同じようにバタッと倒れる。

子どもはびっくりする。

「お母さんも倒れたッ」

母親は一人で立ち上がる。

それを見て、子どもは自分で立ち上がることを学ぶ。

これが母親の最高の知恵だろう。



(ある教育者のひとり言 より)